

福山和人のまちづくり・防災政策

耐震支援事業を復活させ、災害に備える

- 休止中の「耐震・防火リフォーム助成制度※」を復活させ、古い住宅の耐震化リフォームを支援します。
- 廃止された被災住宅への支援制度を復活させます。

※耐震・防火リフォーム助成制度 住宅・建築物が「地震に耐えられるように改修する」費用の一部を助成する制度。



老朽住宅のリフォーム・公共施設のバリアフリー化

- 地元業者に発注して、市営住宅を含む老朽住宅のリフォームをすすめます。
- 市営住宅・改良住宅や公共施設のバリアフリー化をすすめます。



交通空白・困難地域の解消、交通混雑の対策

- コミュニティバスやデマンド型交通、タクシー事業者との連携など、交通網の整備・拡充を図ります。
- バスの市内全域の均一料金化をめざします。
- 一般車両流入規制、住民と観光客のバス分離などをおこないます。

洛西地域の利便性を向上

- LRTなどの新交通機関とコミュニティバスなどの整備をすすめます。
- 芸大跡地は地元住民が策定した「洛西アートヒル計画」などを活用し、誰もが住み続けられるまちづくりをすすめます。



福ちゃん考える！

2・4
市政の選択

京都市の 防災・まちづくり 大丈夫？ 編

消防職員**381人減**
(現市長の16年間で)

耐震・防火リフォーム
助成制度**休止中**

京都市の「まちづくり」は
このままでいいの？

弁護士

福山和人

さんに期待高まる

市政を変えて

タフで魅力ある京都市へ

住んでいる私たちの声、ちゃんと聞いてよ!

花折断層で地震が起きたら市街地のほとんどが震度6弱以上と言われています。木造建築も多い京都のまち。市民が安心安全に住み続けるためには、規制緩和や民間委託ではなく、市民目線のまちづくりが必要だ。との声が寄せられています。



住宅の耐震が人の命を守る

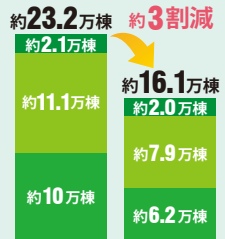
石川県の実家に帰省中の折、能登地方の地震に遭遇。家は浜風にも強い丈夫なつくりですが、余震による倒壊の恐怖もあり、日中は外で過ごしました。翌日には帰京することができましたが、住宅の耐震点検と耐震補強の重要性を強く感じました。命を守るために必要な耐震助成制度を、休止のままにしているのはダメです。



耐震助成が休止なんて

南海トラフはじめ、大規模地震のリスクが高まっていて不安です。無料耐震診断をしてもらい、改修が必要な箇所もわかりましたが、京都市の耐震助成制度が休止と知りショックです。『災害に強い歴史都市・京都の実現を目指す』と言っているのに、おかしくないですか？

耐震化の向上で被害が約3割減



■全壊 ■半壊 ■焼失
(防災会議部会、資料より作成)

京都市は2025年度末の耐震化率目標値を95%に設定している。建物耐震化による減災効果について、花折断層地震を対象として推計。現状90%の耐震化率を95%にすることにより、建物全体では被害が約3割減少すると推計した。



ものすごく不便な公共交通

洛西ニュータウンは、以前はあった地域ごとのスーパーもなくなり、自動車がないと生活に困るほど。自動車だとコインパーキングも少なく、駐車できない。公共交通の場合には「酷い」というしかない不便さに悩まされています。



洛西地域は、住環境として優れているはず

私は1970年代後半から洛西地域に住んでいます。洛西は自然も多く空が広くて気分が良く、大好きです。でも、現在のこの不便さなら洛西を選びません。



住民の声を聞けば解決する問題ばかり

9年前にJR駅直結の大型ショッピングモールができてから、洛西に住んでいる人の移動経路も変化しました。でも、市バスは利用者の少ない路線の方が1時間に何本もあるのに、必要性が高まった路線が1時間に1本などといった状態で、「ちぐはぐ」です。



市民の声で、京都を変えよう!

福山和人

ふくやま かずひと ● 62歳。京都市伏見区生まれ。立命館大学法学部卒業。元・京都弁護士会副会長。まちの法律家として、債務事件、消費者被害、行政事件等他、アスベスト訴訟など働く人の立場に立った労働事件、まちこわし反対の住民訴訟を担当。左京区在住。

市民の声で
つくった政策
はこちら



1月22日～
期日前投票
8:30～20:00*

1月21日告示
2月4日投開票

*一部の出張所では期間
や時間が異なります。
ご確認ください。